



今、生き生きと 88 | 家具職人 大谷周平 (おおたに しゅうへい) さん

昨年12月の技能五輪全国大会家具部門でみごと全国金賞を獲得しました。今年8月、今度はこの成果を引っ提げて日本代表として2年に一度の技能オリンピック国際大会に出場予定。入社2年目でつかんだ大舞台です。半年後に迫った大会に向けて、今月からそろそろ練習もスタートの予定。旭川地区からは40年くらい前、世界大会の家具部門に出場して銀賞を獲得したのが最後で、それ以降は世界大会への出場もないそう。それだけにかかる期待も日を追って高まりそうです。

1月、旭川市内のホテルで開いた旭川家具工業協同組合(43社、桑原義彦理事長)の新年交礼会で加盟各社の社長から祝福も受け「去年は最高の年だった。今年はさらに大きな目標に向けて結果を残したい」。

て一番頼りになる兄貴分。やはり技能五輪大会で全国出場した経験があるといい、製作技術などのアドバイスをもらっているそう。最近引き出しづくりを中心にした製造工程に入っているそうです。

「ちょっとした木のテーブルを1台任せてもらえるようになった。でも機械の使い方は、まだ自分の考えている通りにならないんです」と少しでも早く一人前の職人にとの思いでいっぱいのように。

「まだ製造工程のすべてをやっているわけではないので何とも言えないけれど、苦手な作業はのこ引きかな。手作業の精度が求められるので、自分の中で課題にしているところ」。

くことへの探究ときちようめんさは人一倍のよう。

全国大会の制作課題はキャビネット(幅72センチ、高さ47センチ、奥行21センチ)の制作。2日間、トータル12時間で完成させなければならなかったそうです。

「持ち時間30分前には完成させる時間配分で1カ月前から練習を始めて、問題なく出来ていたけれど、加工精度をきちんと取ることが難しかった」。

次に控えるは世界大会。「半年前に各国代表に教えるエキスパートに課題が発表になるので、練習期間は4カ月間。2カ月前にはしっかりとできるようなってなければ…。まだ大会への実感はないし焦りもない。楽しみです」。

◇ 工場が一番若い職人。5歳離れている工場チーフは、旭川高等技専卒の先輩でもあり、年齢が近いこともあつ

一昨年銀賞を獲得した大会で2年連続の受賞、しかも今大会でみごと金賞を射止めました。「2年に一度しかない世界大会なので、今回が世界につながる最後のチャンス」との思いを秘めて臨んだそうです。

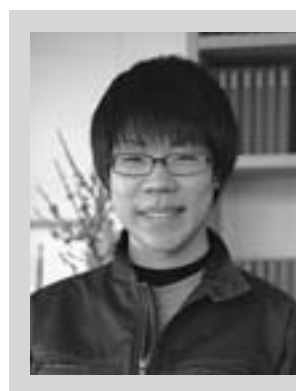
「前は周りの空気にのまれてしまったけれど、2回目だったので平静に臨むことができた」と冷静な自己分析。高い技量と腕を磨



金賞を受賞したキャビネット



旭川家具工業協同組合の新年交礼会にて



大谷周平さん
旭川市出身、20歳。道立東川高校を経て旭川高等技術専門学院(造形デザイン科)卒業。(株)プレステージ・ジャパン「TIME&STYLE」東川工場勤務(北町4丁目13-2)。中央職業能力開発協会主催の第52回技能五輪全国大会(40職種、昨年11月28日から12月1日・愛知県碧南市など)の家具部門(23歳以下若手職人)で金賞。今年8月開催の第43回技能五輪国際大会(8月11-16日・ブラジル・サンパウロ市)に日本代表として出場予定。